

平成30年度 第1回北杜市在宅医療・介護連携推進会議 会議録

開催日時 平成31年1月29日（火） 19時00分～20時30分

開催場所 北杜市役所本庁西会議室

出席委員 10名（欠席者なし）

飯塚秀彦委員・三井梓委員・吉田和徳委員・小林収委員・堀内敏光委員
赤堀治美委員・白倉利江子委員・清水良憲委員・西室徳子委員・岩佐敏委員

[オブザーバー2名：佐藤久子・小坪真由美]

[事務局：篠原市民部長・伴野介護支援課長・皆川健康増進課長・廣瀬保健指導監・松野介護保険担当リーダー・白倉包括支援担当リーダー・中田保健師・増山保健師]

傍聴人 0人

1 開会

2 委嘱状交付（市長より交付）

3 市長あいさつ

4 委員紹介・事務局紹介

5 役員選出

事務局案にて、会長に飯塚委員、副会長に清水委員選出、拍手により承認。

6 議事録署名人選出

三井委員、吉田委員に決定。

7 議事

(1) 事業の概要とこれまでの取り組み

（事務局より資料1を説明）

<質疑応答・意見>

なし

(2) アンケート調査結果の報告

（事務局より資料2を説明）

<質疑応答・意見>

委員：薬局のアンケート調査の対象が12件となっているが、実際はもっとある。レセプト上の数値など、実際の数字がわかると目標設定できていいと思う。県の会議でも大枠でしか数字がわからなかったが、そのあたりの数字は出せるのだろうか。

事務局：本アンケートでは薬局12件中、訪問薬剤管理指導・居宅介護支援事業

を取得しているのが7件という結果で、これ以上の数値は把握していません。県の医療データは中北単位でしか把握できないのでしょうか。

オブザーバー：すでに集計されたものはなく、集計データから拾わないとわからないと思います。

事務局：保険給付のデータで毎月請求の額や利用人数は把握できるため分析は可能です。

委員：すぐでなくてよいが、出した数値はいずれ教えてほしい。

委員：歯科については、個別のケースとして連携してやっているところはあるが、歯科全体のつながりとしてはまだやっていません。将来的には必要な方向性だと思っているが、現在は個々に任せている状況のため、勉強会を月2回やるなかで、連携の仕方を模索している段階です。

事務局：11月に歯科医師会にご協力いただき、顔の見える関係づくりということで介護関係の方々と交流会を実施しました。終了後、アンケートをとったところ、非常に良かったという感想をいただきました。委員からも自己紹介の中でお話があったように、ぜひ「かかりつけの歯科医を持ってもらいたい」ということでした。ここを起点として、歯科医師との連携を進めていきたいと考えています。

会長：医師会としても、「かかりつけ医」をつくるという取り組みを始めています。ぜひ歯科の方でも進めていただければと思います。

委員：連携については、できるだけツテを探して、どこに聞けばやってもらえるかと探したりするが、今一つわからないところがある。例を挙げると、数年前に武川町で在宅医療をやっていた頃、マウスピースを作りたいというケースがあり、他市の知り合いの歯科医を通して、当時面識の無かった市内の先生に連絡してつくっていただいた。つながりが一回できれば、次も頼めるようになるのですが、理学療法分野に関して、以前はまったくツテがなかった。「こういう時はここに聞けばすぐどこかにつながる」というようなルートマップのようなものをつくれれば解決するのではないかと思います。

委員：最近、歯科の方でもかかりつけ医を重視している。ずっと診ている患者の状況はある程度わかります。個人情報なので難しい部分もあるかもしれないが、患者に尋ねるなどして、内科などの主治医の情報もわかれば助かります。かかりつけ医を大事にするという地域性もあり、北杜市の歯科ではかかりつけ医を重視するシステムを構築しつつあります。そうは言っても動けない場合もあるので、事務局を設置し、事務局に連絡してもらえば歯科の方は対応できるようなシステムをつくらうとしています。北杜市外にかかりつけ医がある場合でも、事務局で対応できるようにす

るつもりです。

会 長：介護関係の委員から何かご意見はありませんか。

委 員：今日のような場で意見交換をすると他者の意見がわかるので、会議やグループ検討会などいろいろな場面で北杜市の医療・介護関係機関が集まるといいと思っています。

(3) ワーキンググループでの検討の報告

(事務局より資料3を説明)

<質疑応答・意見>

委 員：在宅をやっていると感じるのは、病院の先生というのは利用者さんにとって一番偉い先生だということ。我々が何か言うより、先生から言ってもらおうと聞く耳を持つことが多いんです。家族がしっかりしていて大丈夫な場合もありますが、そうじゃない大変なケースでは、先生が中心となって周りがうまく連携を取れると、本人・家族への支援がうまくいくことが多いため、そうした先生を中心にした協力体制が取れたらとてもいい支援ができると思います。

会 長：医師の方も介護に対する知識が乏しく、何を言えばいいのだろうということがあると思う。ぜひうまく連携していきたいですね。

委 員：関係する全ての職種（医師・看護師・理学療法士など）のメンバーが集まって、患者の家族もいて、患者側の状況に対して、各々の役割ごとに提案できるような話し合いができれば理想的だが、時間等の問題があり、実現は困難な状況である。医者が見過ごしていて、看護師にアドバイスをもらうこともいっぱいある。テレビ会議でもいいので、顔を見て意見をどんどん出せると、効率よくいくと思う。一部の職種のことしか知らずに、後から反省することが多いです。

会 長：今後、ICTやスマホの活用などで対応できるとよいと思います。

委 員：2年ほど前、製薬会社の人がスマホを使ったシステムを紹介してくれたことがあったが、設置するために高額の費用がかかり、診療所の負担が難しいということで話が立ち消えになりました。便利なのはわかるのですが、10数人の在宅患者しかいない規模ではとても負担できない。多くの在宅患者を抱えていれば、各職種同士で共有が図れて便利だと思うのですが。

会 長：準備会で事務局から紹介があったクラウドを使わないシステムがあります。費用が少なく済み、割と使えそうなので検討してみてもどうでしょうか。

委 員：年齢的にも、電話で話した方が早いとつい思ってしまう。

会 長：いずれは同時に共有できるシステムを利用できるような方向で進めて

いければと思います。

(4) 課題の再整理と次年度の取り組み

(事務局より資料4を説明)

<質疑応答・意見>

委員：ケアマネさんたちの指す困難事例というもののなかには、家族はいるが介護に関わりたがらない、逃げたいと思っているケースと、もう一つは医者が主治医としての役割を果たしてくれないということがあるのではないですか。医者の問題ではあまりないならば、家族と連絡が取れない、お金を出さない、連絡取ろうとしても顔を見せないなどやはり家族の問題が大きいのかもしれないです。

医療連携については、介護保険が始まって16年経ち、吉田先生も飯塚先生も私も、それなりにうまくやっているのではないかと思います。

委員：社協ではヘルパーやデイサービスなどの事業をやっていますが、ケアマネさん頼みというところがある。ケアマネさんと仲良くして情報を共有してやっていこうということが大事だと思っています。ただし、その先というのがよくわからず、これからケアマネさんからお医者さんへという流れについて勉強していきたいと思っています。わからないことがたくさんあります。

委員：情報共有については、定期巡回をするなかで、われわれ看護師が介護職の方々とLINEを使って連携してやっています。ちょっとしたことでも写真が送られたり相談を受けたりしていて、不安を感じながらやっているのだな感じます。市でこうした連携の推進に取り組んでもらえれば介護職としても看護師としても安心します。

担い手不足については、三井先生や吉田先生には日頃お世話になっているようにみなさん下のエリアの先生方で、上のエリアをどうするかが課題だといつも感じています。訪問看護の人員不足もだが、介護職の人員不足も市として考えていただければと思います。

委員：課題がうまく抽出されていてわかりやすいと感じます。すでに問題点が明らかになっているので、作業部会での検討を通じて進めていただきたいと思います。中北地域としても同時並行で検討しているため、そういった情報も加味しながら進めていただければと思います。

会長：平成31年度作業部会で検討を進めていく方向でよろしいでしょうか。

委員一同：拍手で了承。

(5) その他

事務局：次年度推進会議は、6月上旬、9月下旬の2回開催を予定しています。

会長：これですべての議事を終了します。

8 閉会

以上をもちまして、平成30年度第1回北杜市在宅医療・介護連携推進会議を閉会いたします。委員の皆様ご協力ありがとうございました。

以上